

（1）

七月末、大分空港から大阪空港まで航空機を利用した。その際、待合室や機内で特に感じたのは、子供の航空機利用が年々増えていくことだ。家族旅行や一人引率のスポーツグループがその主なものである。

我が国は豊かになったといわれる。生活実感としてはそれ程感じないが、以前は高嶺の花であった航空機利用や家族旅行が一般化しつつあることは事実のようだ。今後更にこれらの状況が進むとみて、二十一世紀を展望した修学旅行がどうなるか、またどうあるべきかを考えることが必要だと思う。

家庭教育の一般化を理由の一つに挙げて、高校の修学旅行を廃止した県がある。このことは修学旅行の存在理由、そしてその教育的意義が問われていると言わなければならない。

## 夏 雜 感 時 言

編集委員

北條直樹

# 平成3年度 文部省予算 概算要求額決まる

## 修学旅行費等の補助金は 実態に見合うよう増額

文部省は、八月末に平成3年度予算の概算要求を大蔵省に提出した。これによると、修学旅行費等の国庫補助金は、別表に示す金額になつている。この補助金は、修学旅行や校外活動に必要な費用を補助するため要保護家庭・準要保護家庭及びへき地校の児童生徒に支給されるものである。

この件に関しては、義務教

育の機会均等を願つて毎年

この件については、

